



公民館報

くしもと

No.114

(2024/3/1)

編集・発行：教育課

串本町サンゴ台690番地5

TEL 0735-67-7260 / FAX 0735-67-7326



表紙文化財紹介

熊野の田搔競牛

(くまののたがききょうぎゅう)

県指定文化財 民俗文化財(無形民俗文化財)
昭和35年3月12日指定

今月号の表紙は熊野の田搔競牛です。

田原でいつから始まったか詳しくわかりませんが、熊野地方では明治初期から始まったようです。

例年田植えの終わる7月頃の、農民のレクリエーションで、牛の品評会の場でもありました。

下田原の田搔き場は熊野地方でも規模、出場牛の数等で有名だったようです。残念ながら昭和34年7月に行われたのが最後となっています。

(写真提供：宮本 學さん)



集合写真撮影：大見 晃生さん

令和6年 二十歳の集い



1月3日、13時から町文化センターにおいて、「令和6年 二十歳の集い」を開催しました。

式典には、対象者124名のうち、男性51名、女性48名の計99名が色鮮やかな振袖、スーツや羽織袴で出席しました。

式典では実行委員会の堀柚太さんと島野美海さんが、司会進行役を務めました。田嶋町長の式辞、鈴木町議会議長、佐藤県議会議員の祝辞の後、坂本教育長が岸本県知事からの祝電メッセージを披露しました。その後、参加者を代表して、仁木愛里さんが「誓いの言葉」を読み上げました。

田嶋町長は「皆さんの最大の武器である若さを活かしてどれだけ頑張るかで、人生をいかに輝かしいものにするかが決まる。大きな節目を感じながらこれから頑張ってください。」とエールを送り、仁木さんは「私達が個性を活かし自信を持って、社会に貢献できる人材となれるよう、努力します。」と誓いの言葉を述べました。式典後は、町内出身のシンガーソングライター南努さんによるアトラクションや、町立体育館で記念撮影を行いました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、参加者の皆さんは久しぶりの再会を喜び、終始笑顔で晴れの門出を祝っていました。



記念品贈呈



旧大島中 最後の卒業生 集合！



司会のお二人

第19回 串本町長杯野球大会



11月22日、古座川町高瀬若者広場球技場において、第19回串本町長杯野球大会の決勝戦が開催されました。

この大会は、野球を通してお互いの親睦と交流を深め、スポーツの普及推進を図ることを目的として行っています。

4年ぶりの大会には5チームが参加し、11月に4週に分けてトーナメント形式で試合を行いました。

大会の結果は次のとおりです。

【優勝】46年会

【準優勝】Real



【優勝】
46年会



【準優勝】
Real

ナンタンキヤンプ情報

1月15日から27日まで、サンゴ台の総合運動公園で、松本山雅FCがキヤンプを行いました。

松本山雅FCは長野県松本市などをホームタウンとする1965年に結成された歴史あるプロサッカーチームです。現在J3リーグに所属し、監督は霜田正浩さんが務めています。

気候が温暖なことやトレーニング環境、宿泊施設が集約されていることから串本をキヤンプ地に選定し、J2昇格を目標に、体力づくりや戦術的なチームづくりを行いました。

同公園では他にも、京都国際高校野球部や立命館大学野球部などがキヤンプを行いました。



松本山雅FCとアルテリーヴォ和歌山のトレーニング

田掻競牛について もう少し

当日の運営は、戦前は警防団、戦後は消防団が中心でした。

【主な役割】

- ・ 出場牛の調査
- ・ 大会までのオリヤ（牛小屋）借用の世話
- ・ 出場順番、牛の組み合わせ
- ・ プログラム作りと牛主への配布
- ・ 来賓用機敷作り
- ・ 田掻き田の整理
- ・ 当日の牛の世話、進行、警備
- ・ 御花（祝儀）の読み上げ

出場する牛は、大会前になると茶飯、にんじん、ハビの骨煮汁、卵などで栄養を十分にとります。

マゴ（牛使い）は当日のスターで、牛主は上手なマゴに使って欲しいので、マゴ選びの競争が激しかったそうです。

表紙の写真から、田の周りに観客用の機敷が作られ、ご馳走を持ち込んで賑やかな雰囲気を楽しんだことが分かります。

※参考

田原の田掻（田原歴史研究会）

今回、田原在住の宮本學さんから、表紙の写真以外にも、貴重な資料を寄贈していただき、一部をご紹介いたします。



★河内祭（前）（後）

きらく会作品 2006年

★古座の祭 2009年

★水門祭 2015年

★ねんねこ祭 1998年

きらく会作品

★田原小学校卒業式 2018年

★田原中学校「最後の三学期」 2011年

★荒船海岸に夏が来た 2018年

★田原の田掻 1958年

ほか

宮本學さんは、旧古座町で長く教育委員を務められ、郷土史や自然環境に係る豊富な知識を活かした活動をされてきました。

資料は学習目的で閲覧することができます。

（問合せは町教育委員会まで）

文化財防火訓練



1月19日に無量寺(串本)、25日に善照寺(古座)において、文化財防火訓練を実施しました。町消防本部協力のもと、出火時の初期消火から、通報、避難誘導、文化財の搬出、放水による消火までの一連の流れを訓練しました。

第70回を迎えた1月26日の「文化財防火デー」前後に行うこの訓練は、火災、震災、その他の災害から文化財を守るため毎年実施しています。

近年のフランスのノートルダム大聖堂や沖縄県那覇市の首里城跡といった文化財の火災を受け、文化財等の防火対策が一層推進されています。文化財を火災から守るためには、火気管理等の出火防止対策を徹底することはもちろんですが、文化財関

係者だけではなく、地域住民との連携・協力が必要となります。地域ぐるみの保護活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●文化財防火デー

昭和24年1月26日に奈良県の法隆寺で火災が発生し、金堂の壁画が焼損しました。これを機に文化財を火災、震災、その他の災害から守るため、文化財防火運動を展開しようと毎年1月26日が「文化財防火デー」として制定されました。以来、毎年この日を中心に各都道府県教育委員会、各消防署、文化財所有者等の協力を得て、文化庁と消防庁が連携・協力して全国各地で防火訓練などの文化財防火運動を展開し、文化財愛護に関する意識の高揚を図っています。



成就寺



無量寺



無量寺

「紡ぐプロジェクト」 成就寺「方丈障壁画」修理協議

成就寺が所蔵し、県立博物館が保管する長沢芦雪筆の重要文化財「方丈障壁画」45面のうち、「紙本墨画 林和靖図」3面と、「草花・鳥図」1面の襖絵が、京都国立博物館内の修理所にて修理されています。

「紡ぐプロジェクト」は、皇室ゆかりの美術工芸品や国宝・重要文化財など、日本の美を未来へ伝え、世界へ発信していくために、文化庁・宮内庁・読売新聞社が官民連携で取り組む事業です。

修理中の4面は、日焼けや虫食いによる傷みが進んでいるため、昨年5月に県立博物館から修理所へ移し、本紙表面の汚れを吸い取り紙に移すクリーニングを実施しました。



2月6日に、進捗状況の確認と修理方針の協議のため、修理を請け負う株式会社松鶴堂の修理所に成就寺大崎住職と文化庁・県教育委員会・町教育委員会の担当職員が集まりました。

確認作業は問題なく終了したため、作業完了後3月に県立博物館に納められます。

【紙本墨画林和靖図】

紙本墨画とは紙に書かれた墨の絵のことです。

林和靖は中国宋代の詩人で、西湖の孤山に隠遁し、20年間世俗との関りを絶ち、妻子を持たず、鶴を飼って梅を愛しました。彼の生き方は、理想の文人の姿として仰がれ、絵の題材としてもよく採り上げられました。

この図は、林和靖のところに、鶴を案内として訪れる客人を描いています。林和靖を覆うように画面全体に枝を伸ばす梅の樹勢は、非現実的ですが、芦雪の優れた構成力を示しています。



和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

令和6年2月11日和歌山県市で「第23回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会」が開催されました。

紀三井寺公園陸上競技場から県庁前までの10区間(21.1km)を小学生4名、中学生6名がタスキを繋ぐコースで健脚を競いました。

松下大祐監督の指導のもと、メンバーは昨年から監督や実行委員の皆さんと共に練習を積み重ね、近隣の大会等に出場した経験を活かし、大会に臨みました。松下監督ほか7名のジュニア駅伝卒業生が実行委員として協力してくれました。

「昨年のタイムを上回る」という



結団式

目標は達成出来ませんでした。1区から10区まで懸命にタスキを繋ぎ、参加29市町中15位と健闘しました。

串本町代表として参加したメンバーは次のとおりです。

【市町村対抗オーダーチーム】

- 1区 二郷 孝太(串本中2年)
 - 2区 松原 咲奏(近大中2年)
 - 3区 中村 珠菜(潮岬小6年)
 - 4区 宮本 凜(古座中1年)
 - 5区 浦地 巨輝(串本中3年)
 - 6区 沖 莉乃愛(橋杭小4年)
 - 7区 慶 奏樹(串本小5年)
 - 8区 川口 真央(潮岬中3年)
 - 9区 東出 賢也(串本小6年)
 - 10区 川口 蒼瑛(串本中3年)
- ### 【オープン部のオーダーチーム】
- 1区 山崎 春翔(潮岬中1年)
 - 2区 和田久朋那(串本中3年)
 - 3区 松原 妃奏(串本小6年)
 - 4区 太田 莉緒(串本中3年)
 - 5区 嶋崎 立晟(串本中3年)
 - 6区 柿本めばえ(潮岬小5年)
 - 7区 清水 寛太(潮岬小6年)
 - 8区 浦畑 雪乃(潮岬中3年)
 - 9区 三木 琉聖(古座小5年)
 - 10区 山崎 瞬(潮岬中3年)

【大会結果】

- 浦畑 翔真 (潮岬小6年)
- 角 勇芯 (串本小5年)
- 横平 秀人 (串本小5年)
- 木村玲希愛 (大島小5年)
- 竹内 克 (串本中3年)
- 沖 陽太 (串本中2年)
- 浦畑 綾乃 (潮岬中1年)
- 坂本 昊佑 (潮岬中1年)

串本町ジュニア駅伝チーム
第15位(1時間15分54秒)

スタート!



これまでの活躍

◆新春田辺長距離走大会

(1月6日)

- 小学4年女子 3位 沖 莉乃愛
- 小学5年男子 2位 清水 寛太
- 小学6年男子 3位 木村 玲希愛
- 小学6年男子 優勝 東出 賢也
- 中学1年女子 6位 宮本 凜
- 中学2・3年女子 4位 川口 真央
- 6位 松原 咲奏

◆新宮市駅伝大会(1月14日)

- 中学生男子の部Aチーム 3位
- 中学生女子の部Bチーム 2位
- 小学生男子の部Cチーム 優勝



串本町ジュニア駅伝チーム

短歌講演・講評会

2月13日午後1時30分から、町文化センターにて、町教育委員会主催による短歌講演会・講評会が開催されました。講演会では、毎日新聞九州歌壇選者の岸田正幸氏が「短歌を楽しもう」をテーマに春の短歌を中心に紹介しました。講評会では、町内外から応募のあった55首について、岸田氏が事前に選考を行い、講評を交え入賞者を発表しました。

【特選】

○カイロスの打ち揚げ近し熊野灘老いら夫婦がエビ網をひく

清水 円

○背を丸め妣ははが作りしさんまずし秋刀魚来ぬ海見つつ偲おぼびつ

村詰 真紀子

○逆縁との級友ともに掛けやる言の葉を模索しつづけ一日の過ぐ

上田 明子

【秀作】

○恐竜の卵かと問う幼子や春の球根植えつつ我に

吉田 洋子

○300円入れましたよと声に出し無人売場に花を選びぬ

中西 みよ子

○知らぬ間に古書肆しんなくなりビュンビュンと車ばかりが行く大通り

田林 和子

○込み合える枝切るごとく整理して君は私に答えを返す

奥澤 典子

○初旅は兵士と共に引き揚げ船祖国の土を踏みし二歳児

奥村 文子

【佳作】

○そのために死ぬる仕事を見付けし日親子の縁を切ると言われき

樋口 勉

○シェークスピアあの強烈な生き方を味わいたくて図書館に寄る

清水 雅昭

○ふるさとは荒磯ありそのつづく枯木灘風が風よぶ風の町なり

池中 健一

○耕作地狭めてなおも田畑打つ花の傘寿は泥んこなりき

強瀬 忠昭

○戸籍簿を頼りに立ちし屋敷跡名水滴る父の故郷

田中 掬代

○色褪せし守り袋を手にしては持たせし母の心偲おぼばる

石垣 実男

○いたわりつゆっくり芋掘いもほる老夫婦、傍そばでかすかにジンジャーかお香る

松下 昭子

○人の世に何か疑問のあるらしくしきりに首を傾げる雀

小山 睦美

○何事も気分が乗らぬこんな日は歳を理由にのんびり過ごこそ

米津 りつ枝

○茶摘み唄谷間に流れしころ遙か荒草に埋まる茶の花の純白

引地 貞子





灯台

「火矢」

串本の冬の観光イベ

ントとしてすっかり定着した感のある望楼の芝焼きが先日行われた。新芽が出る前に害虫駆除などの目的で枯草を焼くいわゆる野焼きは昔からやられていたらしいが、今は「本州最南端の火祭り」という立派なタイトルがついてこの時季の紀南の風物詩の一つになっている。

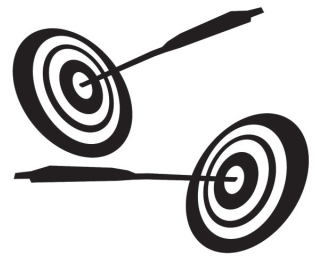
太陽が西に傾き宵闇が迫る頃、火祭りは串本古座高校の弓道部の生徒が射る火矢から始まる。袴姿の高校生が空に向けて放った火矢は放物線を描いて地面に刺さり、そこから同心円状に枯芝が燃え始める。火花が上がリ、広大な芝のあちこちでつけられた火はゆらゆらと燃え広がってやがて芝全体が炎の海となる。写真好きでなくてもシャッターを押したくなるような幻想的な光景だ。

実は、私は教員時代に高校の弓道部の顧問をしていてこの行事に関わったことがある。今から20年以上前のことだ。当時観光協会の事務局長をしていたSさんが学校に来て、芝焼きのイベントを盛り上げるために、高校生に弓で火矢を引いてもらって芝に点火したい。バルセロナオリンピックの開会式で火矢を飛ばして聖火台に火を灯すと

いう演出があったが、あのイメージだという。確かに絵になるし、きつと生徒も喜ぶだろうと思いい、即断でやりましょうということになった。

火矢と言えば、時代劇の戦闘シーンなどでよく目にする飛び道具だ。映画のように布を矢に巻いて油に浸し火をつけて飛ばせばいいだろうと軽く考えていたが、実際はそんなに簡単な話ではなかった。まず苦労したのが矢の確保だ。古くて使わなくなった矢の中から羽が残っていて曲がっていないものを探す。そのままでは矢尺が短くて布を巻き付けることができないので別の矢を切つて中に芯を入れ継ぎ足して長くする。その矢の先に布を巻き付けて一応完成となる。ところが新たな問題が発生する。高校生が使っている競技用の矢はジュラルミン製で軽くて良く飛び精巧なつくりになっているのだが、継ぎ足した矢は微妙に重心が狂っている上に布の分だけ重くなっているので、飛びが悪いし狙いも定まりにくい。さらに困ったことに、自作の火矢は勢いが強すぎると「離れ」の瞬間に火が消えてしまうのだ。といって弱くすると今度は火は消えなくても矢が飛ばない。一杯に引き絞った弓から放たれた矢が目の前にポトンと落ちるのでは絵にならない。火を消さないでできるだけ遠くに飛ばせるように試行錯誤を繰り返してバランスを調整したいところだが、一度火をつけた矢は熱で曲がってしま

って使えなくなる。本数に余裕がないのでそんなに何度も試し打ちはできない。また、狙いの怪しい火矢の試し打ちなど危なくて簡単にできる場所が見つからない。結局は、ほぼぶっつけ本番に近い状況で臨まざるを得なくなる。当時はたくさんいた希望者の中から4、5人を選抜して本番に挑んだが、射手全員の火が消えてしまった年もあった。



あれだけ大勢の人に注目される晴れ舞台に立ちながら失敗したときは、悔しいやら、情けないやらで、部員も、顧問もしばらく立ち直れないくらい落ち込んだ記憶がある。高校生が参加したこのイベントはその後もずっと続いてきているが、最近結構うまくいっているようだ。これは私の後任で弓道部のOBでもある先生の努力によるところが大きかったように思う。熱心な指導者で、高校時代は全国大会へ出場するなど活躍したI先生だが、この火矢の演出は彼が高校生頃に始まった。火矢づくりの難しさもよく理解していた彼は、自分が顧問になると、布の巻き方などで様々な工夫をして、どんな条件でも簡単に消えない矢を考案した。アウトドア

用の消えないマツチを布の中に忍ばせたりもしたそう。当時、この芝焼きの動画を見たあるテレビ局のスタッフから矢の作り方について問合せがあったという話を聞いたが、やはり火矢を飛ばすにはそれなりの工夫が必要だということだろう。I先生はすでに転勤しているが、その技は確実に後進に受け継がれているようである。二千人を超える観衆が見守る中、薄暮の空に向かって火のついた矢を射る高校生の姿は実に見栄えが良く、串本町の観光PR画像などでもよく目にする印象的な一コマだ。火祭りの幕開けにふさわしいユニークで効果的な演出だと思ふ。生徒の数が減少して活動が難しいクラブもあるという寂しい話も聞くが、元関係者としては、これからも火矢を引くかっこいい高校生の姿がこのイベントを盛り上げてくれると期待している。

(永石 和 編集委員)





第19回 町民音楽祭

令和6年3月3日(日) 13:00~(開場12:30)
開場：串本町文化センター大ホール (入場無料)

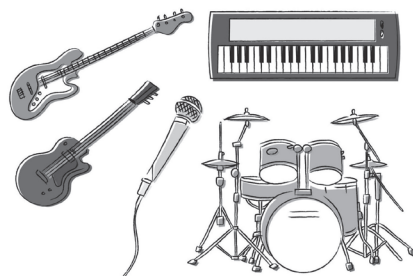
器楽・詩吟・詩舞・邦楽・踊り・コーラスほか

曲目の載ったプログラムは、当日入場口でお配りします。
(12組出場予定)



主催：串本町 / 串本町教育委員会 / 串本音楽協会

町民音楽祭 バンドの部



令和6年3月10日(日) 13:00~

曲目の載ったプログラムは、当日入場口でお配りします。(6組出場予定)

図書館より 新着図書のお知らせ



- | | | | |
|-------------|--------|----------------|----------|
| ◆リカバリー・カバヒコ | 青山 美智子 | ◆ちいさな季節の編みかざり | 松本 かおる |
| ◆ゆうべの食卓 | 角田 光代 | ◆これからはじめる 源氏物語 | 島村 洋子 |
| ◆星を編む | 凧良 ゆう | ◆働く車分類図鑑 | クルマ解剖研究所 |
| ◆マリスアングル | 誉田 哲也 | ◆アジアの煮込み | ワタナベ マキ |
| ◆食でめぐるトルコ | 岡崎 伸也 | ◆推し短歌入門 | 榊原 紘 |
| ◆消えたことば辞典 | 見坊 行徳 | ◆紫式部と源氏物語の謎 | 源氏物語研究会 |
| | | | ほか |